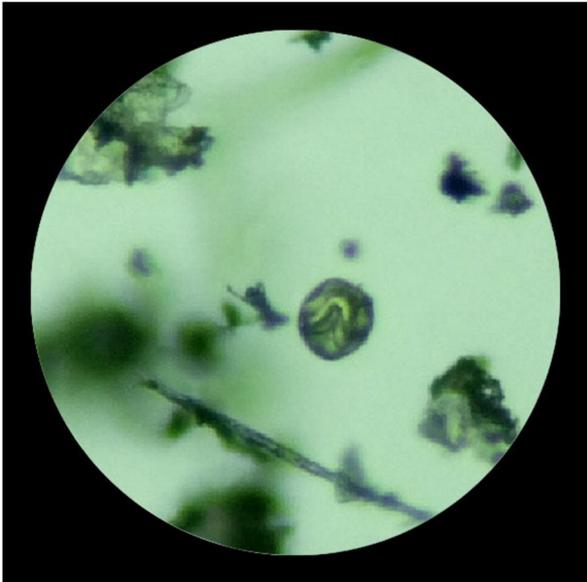


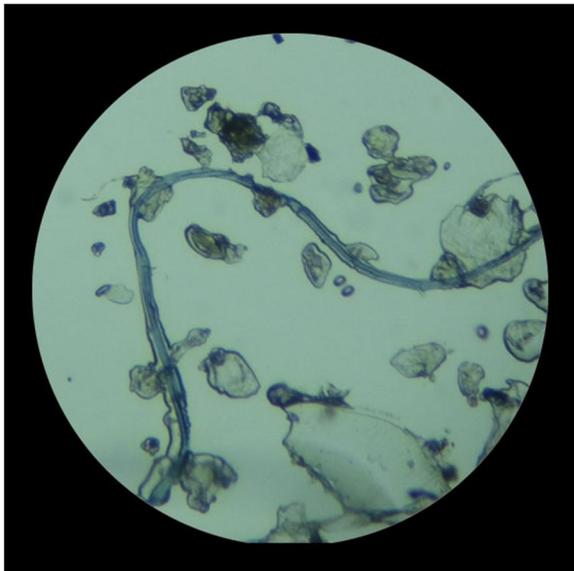
## 「エアコンフィルターに学ぶ(3)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

エアコンのフィルターは、空気中の相当に小さな物体までキャッチすることができる。鉱物(砂ぼこり)の結晶に混ざって、花粉や孢子もよく見つかる。



たとえばこの写真だ。鉱物の結晶ではない。しかし、人工物にも見えない。恐らく何かの花粉か孢子だろう。残念ながらその区別までは難しい。



もう一つ面白いと思ったのが、上の写真のような青い繊維状の物体である。それも1本や2本ではなく、どの研究所(班)の顕微鏡からも続々と見つかった。繊維状の物体はほかにもたくさんあるが、圧倒的に青いものが多い。一体これは何だろうか? 私はその正体に関する推理を、子どもたちに投げかけてみた。

教室内に多く、青い繊維状の物体・・・子どもたちはすぐに、自分たちが身につけている服を疑った。「疑う」という行動は、理科では大切である。この場合の「疑う」というのは、「結果や考察に疑義をはさむ」という意味ではなく、「これが正体かも知れない」と推理するという意味だ。子どもたちが着ている服は、標準服(制服)もトレーナーも青(紺色)が多い。



さっそく、男児がよく着ているトレーナーにテープを当てて、「サンプル」を採取してみた。



これがその顕微鏡像である。まさしくこれが「正体」であった。子どもの推理と観察事実が一致した一瞬と言える。興味深いのは、子どもが着ていたトレーナーの繊維からも、花粉や鉱物の結晶が多数見つかったことである。以下は、子どものノートの記述である。

「私は、エアコンのほこりに入っていたこう物や花粉は、まどから入ってきたのだとばかり思っていました。でも、服のせんいからもたくさん見つかったので、花粉やこう物を教室に持ち込んでいたのは、私たちなのかも知れないと思いました」